

と考えています。

とが明らかになってきました。北海道支

ており、

系統間の成長量の差が大きいこ

ヤナギ、エゾキヌヤナギの選抜を行っ

さらに、バイオマス利用に適したオー

所との連携で大きな成果に結びつけたい

## 北海道育種場

札幌市の東隣、江別市にある育種場では、カラマツ、グイマツ、トドマツといった北方系樹種のエリートツリー(第2世代精英樹)の選抜や、その他の優良品世の開発などの事業を実施しています。これらの事業を効率的に行うとともに、これらの事業を効率的に行うとともに、は、カラマツ、ガイマツ、トドマツといが付くよう、道内の関係機関やフィンランド森林研究所と連携し、以下の研究を実施しています。

実施しています。 優良な種子を安定的に得るため、着花寒水カニズムを解明しつつ、着花促進手法メカニズムを解明しつつ、着花促進手法理など)を開発しています。間伐により理など)を開発しています。 じ下の研究をとを確認しました。

することができました。

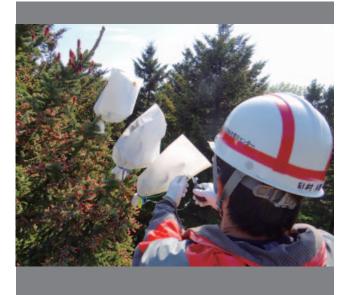
マツで長日処理により育苗期間を半分にナ苗に関する研究も行っています。エゾ長日処理による育苗期間の短縮やコンテ表の生存率や成長量を確保するため、

また、優良な苗を短期間で育苗し、

トドマツの材質非破壊試験(横打撃共振法)による選抜の効率化



前年にさし木したヤナギ選抜試験地





長日処理により2年間で成長したエゾマツコンテナ苗(右)